

新年度のご挨拶

病院長 武田 正之



1. 新型コロナウイルス(COVID-19)感染症対策について

新型コロナウイルス感染症は令和元年11月に中国湖北省武漢市から始まって世界中に広がり、「パンデミック」となりました。

令和2年3月6、7日に山梨県における第1、2例、3月24日に第3、4例の発症が確認されて、いずれも当病院に入院しました。今後は感染源のわからない患者が継続的に増加する地域が全国に拡大すれば、どこかで「オーバーシュート」と呼ばれる爆発的な感染拡大を伴う大規模流行につながりかねません。山梨県での患者発生予測は、ピーク時1日当たり外来患者数2,850名、中等症の入院患者数1,500名、重症(集中治療室管理が必要、一部は人工呼吸器管理)50名です。現在、こうした「オーバーシュート」にも対応できるように準備中であり、山梨県内外の感染者の治療と発熱外来や帰国者・接触者外来の対応なども含めて病院全体がOne TeamとなってCOVID-19対策に多忙を極めていきます。

COVID-19がある程度落ち着くまでは、一般診療に影響を生ずるため、皆様方にはご迷惑をお掛けしますが、現在はまさに日本の存亡の危機であり、ご理解ください。

2. 附属病院稼働状況と再整備進捗状況

職員の皆様の努力により令和元年度も附属病院は順調に稼働し、稼働額は平成30年度の200億7千万円から約207億円に増加する予定でしたが、前述のCOVID-19対策のために多くの病床を用意せざるを得ないなどの事情のため、203億8千万円となりました。

ハイブリッド手術室における「経カテーテル大動脈弁留置術」、令和元年5月に「ダビンチ®Si」から新たに最新型の手術支援ロボット「ダビンチ®Xi」と

「ダビンチ®Xi」の2台に移行したロボット支援内視鏡下手術は、高難度医療ですが当病院では標準手技となっています。可動式3テスラMRI手術室における脳神経外科手術、令和元年5月に国立大学附属病院では初めて0-アームを2台設置した整形外科ナビゲーション手術も当院の特徴です。

附属病院再整備計画の進捗状況ですが、平成30年10月に新病棟Ⅱ期棟が着工し、令和2年6月竣工、令和2年10月開院を目指しています。その後は、中央診療棟・特殊診療棟の改修、新病棟Ⅲ期棟の建設、外来棟改修・増築の予定です。

職員の皆様には一時的にご迷惑をおかけすると思いますが、ご容赦ください。

3. 新年度病院目標:

令和2年度の附属病院の目標を、I. 稼働額、II. 地域連携医療、III. 経費削減、IV. 7対1入院基本料算定要件、の4点としました。

I. 稼働額208億8千万円

(前年度稼働額 203億8千万円)

II. 地域医療連携 逆紹介率65%以上

III. 経費削減 医療費率38.6%以下

内訳:薬品費24.1%以下

材料費14.5%以下

IV. 7対1入院基本料算定要件

「重症度、医療・看護必要度Ⅱの該当患者
基準割合30.0%以上」(新基準)

4. 入退院支援室について:

平成29年1月から予定手術入院患者の一部を対象とした「入院支援室」業務を旧形成外科医局の場所で開始しました。令和2年10月の第Ⅱ期棟稼働後は、全ての予定入院患者を対象とし「入退院支援センター」と「周術期センター」機能を備えた「患者総合サポート部(仮称)」へと発展させて行く予定です。

(次項につづく)

5. 初期臨床研修医マッチング、新専門医制度による専門研修医マッチング結果:

令和2年度の初期臨床研修医としてマッチングした医師は36名でマッチ率は85.7%、山梨県内での初期研修医は58名(マッチ率76.3%)でした。令和2年度の県内3年目の専門医制度研修医師採用数は53名で前年度の57名とほぼ同等でした。

6. 国家試験(医師、看護師)結果:

令和2年山梨大学医学部卒業生の看護師および医師国家試験成績は以下の通りです。

医師合格率: 全体97.4%、全国平均92.1%

看護師合格率: 全体96.8%、全国平均89.2%

医師国家試験は全80大学8位、国立43大学中2位と過去最高の成績でした。

最後に:

新型コロナウイルス感染症(COVID-19)の収束に向けての努力ばかりではなく、これまでと同様に「理想の大学病院」を目指した挑戦を続けますので、本年度もよろしくお願いいたします。

令和元年度医学部離任式

去る令和2年3月31日、退職される方の離任式が挙行されました。

初めに、小林総務課長から離任される方の紹介があり、武田病院長から永年の功労に対し感謝の言葉が述べられました。

続いて退職者お一人お一人からも挨拶をいただきました。式の最後には、在職職員から花束が贈呈され、盛大な拍手でお送りいたしました。



前列左から、矢崎歯科技工士、小尾リハビリテーション部技師長、武田病院長、佐野放射線部診療放射線技師長、河手看護師長 後列左から、飯野学務課長、二俣技術専門員、手塚薬剤部副部長、齊藤看護師長、山田事務部長

退任あいさつ

前副病院長(総務担当)、前医学域事務部長 **山田 芳男**



私は、昭和53年4月に総理府恩給局に採用され、4年後の昭和57年4月に山梨医科大学に転任いたしました。一面に咲き誇るれんげ畑の中で、出来たばかりの真っ白い管理棟に新品の机が用意されており、附属病院の建築が始まっていました。

甲府キャンパスでの9年3ヶ月以外は、医学部キャンパスで28年9ヶ月を勤務し、合わせて38年間を同じ大学で過ごすことが出来たことは、とても幸せなことだったと感謝しております。

病院経営企画室長だった平成24年4月に、附属病院の再整備計画が承認され、平成25年5月に新病棟I期棟の建設が開始されました。同時に工事用地のため駐車場が不足することになり、立体駐車場を建設することになりましたが、市街化調整区域の制約が

あって特例で認めてもらうための資料作りなどで苦労したこともありました。

医学域事務部長となった平成30年10月には、新病棟II期棟の起工式にも出席することが出来まして、附属病院の創設・開院と再整備の両方に携われたことは、一番の思い出です。

また、地域医療構想への取り組み、医師・医療従事者の働き方改革、医師偏在対策、病院機能評価受審など課題もありますが、今年度6月にはII期棟が竣工し、すべての病床が新しい病棟になり、最新鋭の病院となる明るい話題もあります。職種を超えたチームワークの良さで、一人ひとりが満足できる病院を続けていきたいと思っております。

現在は、COVID-19の対応に病院一丸となって取り組んでおりますが、早く終息するよう願っております。武田病院長を補佐し、医師、看護師、コメディカル、事務職員の皆様に支えていただきながら、無事定年まで勤めることができましたのも、皆様のおかげです。長い間、本当にありがとうございました。

退任あいさつ

放射線部 前診療放射線技師長 佐野 尚樹



36年間、大変お世話になりました。

私は山梨大学医学部附属病院（旧山梨医科大学医学部附属病院）が昭和58年10月に開院する半年前に開設スタッフとして赴任しました。

就任時、新築された多数の空部屋に、

最先端装置が次々に運び込まれ設置される様子は全くの壮観でした。開院時は7名の放射線技師でスタートしました。私は一番年下で入職したので何かと寛容にしてくださいました。開院までの半年間の県立中央病院への出向研修や導入された装置の調整作業を夜遅くまで行ったことなど、今は懐かしく思い出されます。

開院から2年後に放射線治療が開始され私が担当となりました。それ以降、放射線治療一筋

に30数年の長期に渡り務めさせていただきました。担当を始めたころの放射線治療は「ねくら」的なイメージがありましたが、ここ20年間の放射線治療技術は飛躍的な発展を遂げました。時代に乗り遅れないよう放射線治療医と共に無我夢中で取り組んだ結果、現在では国内をリードする施設へと成長することができ、微力ながら役目を果たせたと安心しております。

最後の1年間は技師長を務めさせていただきました。不慣れな私でしたが、放射線部スタッフをはじめ診療科の先生、事務の方々など多くの方のご支援により無事務めることができました。この場をお借りし、心より感謝申し上げます。

最後に、山梨大学の更なる発展を祈念致しまして退任の挨拶とさせていただきます。長年に渡りお世話になり、ありがとうございました。

退任あいさつ

リハビリテーション部 前技師長 小尾 伸二



昭和62年から32年間、先生方をはじめ看護師、事務、コメディカルの皆様には大変お世話になりました。誠にありがとうございました。

平成の時代をこちらで過ごしたことになりますが、時代の移り変わりは激しく

PCの普及と同時に診療録も何もかも電子化の時代に変化したのが印象的です。

私が入職した際は、リハビリはまだ整形外科理学療法室という特殊診療施設の位置づけで定員は2名であったため、4人目で就職した私は行政職員としての勤務でありました。当時は人数や単位の制限はなく、多い時は外来・入院含め1人で50名以上の患者様に対応し、昼食も取れなかった事を思い出します。

その後、診療報酬の改定も次々に行われ、リハビリの対象や日数も制限が厳しくなる中で医療の専門化が進み、リハビリも専門的技術知識が必要になりました。しかし、対応する患者は合併症や併存症を有し、専門分野の知識だけでは対応が困難な例も多く、リハビリには幅広い分野の知識も求められます。

さらに今後は、急性期医療の中での早期リハビリテーションの効果を検証しなくてはなりません。そのためには、あらゆる診療科の患者様に早期から対応できる人材や人数が必要であり、病院全ての皆様にご指導ご協力を頂かなくては成り立たない部門だと思われまます。

どうか、今後ともリハビリテーション部に対するご支援ご鞭撻をお願いいたします。長い間、本当にありがとうございました。

「退任あいさつ」

臨床研究連携推進部事務局長、前副薬剤部長 手塚 春樹



この度、令和2年3月31日付で定年退職いたしました。昭和58年4月、開院の年に採用されてから37年間薬剤部に勤務し、その間、前半は主に薬剤部業務の効率化、後半は治験業務に携わってまいりました。長きにわたり、薬剤部及び病院各部の皆様には

いろいろとご指導いただきありがとうございました。

37年前、初代中島新一郎薬剤部長以下10名の開設準備スタッフのなかで最年少、卒後2年目の新米薬剤師であった私を、先輩薬剤師の方々が1人前の同期の仲間として扱っていただき、薬剤部をゼロから作るという貴重な仕事をさせていただきました。開院準備の忙しい中、ガランとした薬剤部のなかで、昼休み、バドミントンをしたことも思い出されます。

その後、スタッフは徐々に増えていき、また薬剤師に求められる業務が変遷するなか、常に現場薬剤師として後輩を教育し業務改善を行ってきました。薬剤部業務は部内業務から病棟や病院各部署へ常駐するなど部外業務にシフトし、部内より部外の病

棟や各部署で患者さんのもとで業務に携わる薬剤師の数が多くなっていきました。そして現在は、同期採用であった現鈴木正彦薬剤部長のもと、50余名の大所帯となっています。

この間、富士山八合目救護所における医療ボランティア参加や、阪神淡路大震災及び東日本大震災の救護班への派遣などの貴重な経験を得る機会をいただきました。

治験業務は、当初薬剤部薬品情報室でスタートしたものを引き継ぎ、平成12年に治験センター、平成22年には臨床研究連携推進部へと発展し、病院における治験の一元管理をおこなっています。

現在、臨床研究連携推進部は、病院正面玄関2階の旧病歴室跡地に移転し、「患者さんの未来のために」と銘打ち、事務局業務やCRC業務を通じて、新しい医薬品や医療機器を世の中に送り出す一助として業務をおこなっています。治験の推進について今後ともご理解とご協力をいただけますようお願いいたします。

最後に、ご指導いただいた病院各部の皆様や、無理を聞いていただいた事務の皆様、薬剤部及び臨床研究連携推進部の皆様に深く感謝し、今後の発展と皆様のご健勝を祈念申し上げます。ありがとうございました。

退任あいさつ

前4階南病棟看護師長 河手 久美



この度、無事3月31日で定年を迎える事が出来ました。

今はほっとした気持ちと、とても寂しい思いが強くなっています。

私は千葉大学に就職し山梨医科大学附属病院の開院

時に転任しました。2階東病棟配属になり、開院に向けての準備、1人目の患者様を全員で迎えた事、患者さんと夜に散歩した事等、昨日の事のように懐かしく思い出します。

結婚し、看護師として10年間程離れた後、精神科単科の病院に5年務め、43歳の時に再び、

山梨大学医学部附属病院に再就職させていただきました。当初はとても大変でした。でも、周りの皆様はもっと大変だったと思います。私を支え続けていただいた皆様には本当に感謝しています。

患者さんからも人生・病気に立ち向かう姿勢を教えてもらいました。皆様に支えられ無事定年を向かえることが出来たと感謝します。

4月から、精神科の訪問看護ステーションを立ち上げる事になりました。これも、初めからつくりあげる充実感・楽しさをこの病院で学び、スタッフ・管理職として経験を積ませていただいたからこそ出た勇気だと感謝申し上げます。今まで本当にありがとうございました。

最後に、皆様の健康と活躍を心より願っております。

退任あいさつ

前医療情報・診療報酬担当看護師長 齊藤 幸美



本年3月31日をもって定年退職いたしました。

昭和58年9月に、滋賀医科大学医学部附属病院から旧山梨医科大学医学部附属病院に転任し、現在の看護部管理室の場所にありました「4階中病棟」の眼科チームでの開院準備

から、山梨での看護師生活がスタートしました。

その後、1階西病棟・6階西病棟・2階東病棟・医福祉支援センター・5階西病棟を経て看護部管理室での情報・診療報酬担当と様々な部署で、多くの患者さんや看護師仲間、先生方、他部門の方々と出会い、時に厳しく、時に優しくご指導ご支援いただいたことにより今日を迎えることができ

ました。

看護師生活の中で学んだことの中に「私とあなたは違う」ということがあります。「同じものを見ても同じように感じるとは限らない、だから会話し確認することが大切であり、それが個性のあるかわりにもつながる」これは、看護だけでなく様々な場面で私を戒め背中を押してくれるものでした。

また、情報・診療報酬担当として役割を果たす中では、社会情勢やそれに伴う医療看護界の動向の把握と、情報共有の重要性を感じました。必要性を理解できれば、それに向かって一丸となって進める看護部組織であることは、病院機能評価、東日本大震災や新棟移転、特定共同指導など様々な場面で実証されています。

こんなに素晴らしい組織の中で、長い期間に渡り共に働くことができたことを心より感謝いたします。ありがとうございました。

退任あいさつ

前医学域事務部・医学域学務課長 飯野 和彦



昭和63年2月に東京大学総務部人事課から山梨医科大学総務部庶務課に転任となり、山梨に戻ってまいりました。

国立大学法人化の平成16年3月までの約16年間、主に人事関係を担当

させていただきましたが、看護職員の採用が困難な時期には、看護部長及び副看護部長に同行し、県内外の看護学校等を訪問してPR活動を行ったことや、看護部と協働して離職対策にも取り組んだことが思い出されるとともに、当時の貫井英明医学部長（元学長）の下で教員の任期制導入に関わらせていただいたことも印象に残っております。

また、医事課勤務を経験させていただきたいと当時の庶務課長に申し出て、平成7年4月から4年間、医事課外来を担当させていただいたことは、とても貴重な財産となっております。

国立大学法人化後は甲府キャンパスでの勤務が続きましたが、平成24年4月に学務課に異動となりました。平成26年3月までの2年間、医学科学生のチュートリアル教育並びにCBT及びOSCEの共用試験を中心に、教務関係を担当させていただきましたが、その中で医学科4年次生に対するOSCEの共用試験が平成26年2月の豪雪（甲府の積雪114cm）により実施することができず、1月遅れの3月に実施したことが今でも思い出されます。

その後、5年間甲府キャンパスでの勤務を経て、平成31年4月に再度学務課に戻ってまいりまして、医学科新カリキュラムの見直しに関わらせていただきました。また、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止に伴う対応に当たりましたが、一日も早い収束を願っております。定年退職後は再雇用として、ワイン科学研究センターで微力ではございますが、少しでも本学のために尽力させていただく所存です。

最後に、これまでの皆様方のご指導とご支援に心から感謝申し上げますとともに、今後ともご指導くださりますようお願いいたします。

病院機能評価「一般3」3rd Generation, Version 2の受審について

副病院長（安全管理担当）、医療の質・安全管理部長 木内 博之

病院再整備のさなか、予想外のコロナウイルスの猛威が日本中を席卷し、当院においても積極的にその対策にあたっていたいただいているところでございますが、一刻も早い終息を願っております。職員の皆様には、このような状況の中、日々の診療の維持、向上に多大なるご尽力を賜り、心より感謝申し上げます。

さて、当院は、平成22年、財団法人日本医療機能評価機構により5年間有効の病院機能評価 Ver6.0の認定を受けましたが、その後の更新受審は受けておりません。それは、認定要件に施設・設備基準が多く含まれているため、平成25年から始まった再整備で基準を充たした後で評価を受けたほうが良いとの判断からでした。しかしながら、国が定める特定機能病院の承認要件として、第三者による評価を受けていることが望ましいとの指摘もあり、コロナウイルスの影響によって時期は未定となりますが、病院機能評価を受審することになりました。つきましては、本機能評価のサーベイヤーも務めている荒神裕之教授とともに準備担当を拝命いたしましたので、どうぞよろしく願い申し上げます。

「一般病院3」は、今回の病院機能評価の改定で新たに加えられた機能種別で、高度な医療の提供、技術の開発・評価、研修を実施する特定機能病院や大学病院等が対象で、その評価項目は

高度医療に関する項目をはじめ、ガバナンスのしくみと実践、医療安全確保の取り組みなどが対象となっています。体制・手順の整備等の構造的な内容に加えて、機能がどのように発揮されているか、組織的な活動がどのように行われているかプロセスの評価が重視されていると考えております。

具体的には、評価項目として、患者中心の医療の推進、良質な医療の実践1および2、理念達成に向けた組織運営の4領域、89個が用意されています。実際の準備にあたっては、これら全項目について解説書を読んでよく理解し→院内を振り返り→現状とのギャップを認識し→改善策を考え、話し合い→行動、活動、改善し→評価される院内体制を構築し、それを数か月以上継続した上で審査に臨むことと理解しています。詳細な説明は、令和元年1月29日開催のキックオフセミナー資料ならびに Safety Plus の E-learning にアップロードしている病院機能評価受審説明会その(3)を、ご参照ください。

審査にあたり、あらかじめ核心的な項目について準備を担当する Working Group と診療科長、師長、部門長等で構成する対策協議会との2本立てで、進めさせていただきたいと考えております。

つきましては、一発合格目指して「病院全体がひとつのチームの完成形」となれるよう職員の皆様のご支援・ご協力をよろしく願い申し上げます。

治験の推進に向けて

臨床研究連携推進部長 岩崎 甫

常日頃より治験業務にご支援・ご協力を頂き、ありがとうございます。

人に対する研究を臨床研究といいますが、特に新薬の承認を目指して有効性等を評価する臨床研究を「治験」といい患者さんに新薬を届けるためにはなくてはならないものです。臨床研究連携推進部 治験センターでは治験に積極的に取り組んできておりますが、昨年からはシミックホールディングス株式会社と連携し、更なる推進、治験契約件数の増加に向け、様々な方策を進めています。現在、該社および株式会社 EP 総合の SMO（治験施設支援部門）から、実施可能な治験を紹介していただく仕組みを整備いたしました。紹介のあった治験については、各

診療科へ参加の可否について、SMOの担当者とともに内容説明にお伺いいたしますので、ご対応いただくとともに、実施可能な治験があれば、是非ともご協力をお願いいたします。さらに、治験だけでなく臨床研究にも役立つ患者レジストリーの構築を始めましたので、実効性のあるデータベースを作成するため、各診療科におかれましては、ご参画いただき、情報提供等ご協力をお願いいたします。

最後に、COVID-19に対する診断法や治療薬の開発も進んでおり、本院も治験への参加に関係者に伝えてあります。その際には皆様からのご理解ご協力を頂きたく、よろしくお願いいたします。

令和2年度新部門長等の紹介

令和2年4月1日現在

病院長・副病院長

病院長	副病院長							
	財務管理・経営改善・地域医療担当	病床管理・運営改善担当	労務管理・臨床研究担当	医療安全(医療の質・安全管理)・病院再整備担当	保険診療・医療安全(感染制御)担当	看護・患者サービス担当	業務担当	総務担当
武田 正之	佐藤 弥	榎本 信幸	平田 修司	木内 博之	波呂 浩孝	古屋 塩美	鈴木 正彦	野中 昭彦

中央診療部門等

部門名	部長等	副部長等
検査部	井上 克枝	高野 勝弘 多田 正人
手術部	石山 忠彦	櫻本 かおり
放射線部	大西 洋	相川 良人
材料部	松川 隆	
輸血細胞治療部	井上 克枝	高野 勝弘
救急部	森口 武史	
集中治療部	後藤 順子 <small>(副部長として部長を代行)</small>	
新生児集中治療部	犬飼 岳史	小鹿 学
病理部	近藤 哲夫	望月 邦夫 中澤 久美子
分娩部	平田 修司	
リハビリテーション部	波呂 浩孝	八木野 孝義
血液浄化療法部	深澤 瑞也	
光学医療診療部	山口 達也	深澤 光晴
総合診療部	佐藤 弥	針井 則一

部門名	部長等	副部長等
臨床研究連携推進部	岩崎 甫	佐藤 金夫
MEセンター	中島 博之	
医療チームセンター	飯嶋 哲也	
生殖医療センター	平田 修二	
腫瘍センター	桐戸 敬太	
肝疾患センター	井上 泰輔	中山 康弘
口腔インプラント治療センター	上木 耕一郎	
遺伝子疾患診療センター	石黒 浩毅	
循環器救急センター	久木山 清貴	尾畑 純栄
リウマチ膠原病センター	波呂 浩孝	川村 龍吉 中込 大樹
アレルギーセンター	増山 敬祐	中尾 篤人 三井 広 松岡 伴和
IVRセンター	大西 洋	荒木 拓次 岡田 大樹

部門名	部長等	副部長等
てんかんセンター	木内 博之	加賀 佳美
病院経営管理部	佐藤 弥	
栄養管理部	小林 貴子	
医療の質・安全管理部	木内 博之	荒神 裕之
感染制御部	波呂 浩孝	井上 修
薬剤部	鈴木 正彦	河田 圭司 橋田 文彦
医療福祉支援センター	端 晶彦	市川 二郎
臨床教育部	[病院長が代行]	
臨床研修センター	板倉 淳	
専門医キャリア支援センター	市川 大輔	平田 修司 三枝 岳志
臨床実習センター	鈴木 章司	川端 健一
シミュレーションセンター	板倉 淳	
山梨県地域医療支援センター	佐藤 弥	大森 真紀子

看護部

看護部長	副看護部長			
	総務担当	業務担当	質保証担当	教育担当
古屋 塩美	大門 恵美	村松 陽子	小泉 夫美子	杉山 千里

部門名	看護師長	副看護師長
安全対策担当(GRM)	伊藤 雅美	山中 浩代、小林ひとみ
感染管理担当(ICN)	窪川 佳世	入倉 悠
医療福祉担当	穴水 美和	松土 裕子、茂手木 智美、藤原 由理香
緩和ケア担当	中嶋 君枝	
皮膚・排泄ケア担当	金丸 明美	
医療情報・診療報酬担当	山本 ゆかり	
教育担当	茶谷 直子	織田 茉莉恵、細野 英伸、磯野 絵美
研究・実習担当	小澤 和子	
病院再整備	山口 奈巳	
特定行為研修担当	永田 明子	
入院前支援担当・病床管理担当	三平 まゆみ	
外来	大芝 まゆみ	戸栗 宏子、大森 ゆかり、日向 恵
手術部	櫻本 かおり	上原 良江、土屋 一枝、熊谷 奈美、溝口 真由美
材料部	山本 秀美	
ICU病棟	山本 智子	長澤 美佐子、坂本 友紀、柴 佳菜、渡辺 裕美
NICU病棟	萩原 千代子	寺島 由美子、清水 陽子

部門名	看護師長	副看護師長
GCU病棟	田邊 玲子	杉本 美貴、小池 美和
1階西病棟	金丸 紀子	神宮寺 文、青木 真理、小倉 幸子
2階西病棟	望月 恵美	高橋 里香、朝岡 菜美、赤池 陽子
3階西病棟	河西 典子	中込 美幸、田草 裕美子、小林 加奈子
4階西病棟	杉田 俊江	大村 希依、手塚 絵里子、藤内 さやか
6階西病棟	金子 春美	青柳 しづか、松田 旬美、遠藤 さやか
7階西病棟	蓮沼 知津子	内田 純子、武田 陽子、高橋 真貴
4階南病棟	島田 昌子	伊藤 由香、名取 佐知子、齊藤 渚
5階南病棟	矢崎 正浩	中柄 創和、秋山 友梨、神田 藍
6階南病棟	岩澤 久美	大久保 香織、青木 絵梨子、山本 浩夢
7階南病棟	北井 朋美	相川 真弓、渡邊 祐将、山本 瑠美、
4階北病棟	竹田 礼子	望月 文香、長澤 良美、橋本 佳奈子
5階北病棟	鈴木 聖美	土橋 怜奈、名取 貴史、望月 あゆみ
6階北病棟	渡邊 理映子	三枝 栄江、長田 和子、谷 みるみ、後藤 詩乃歩
7階北病棟	平野 みのり	辻 稔、坂野 雅子、原 麻由美

事務部

医学域事務部長	課・室名	課・室長	補佐・専門員
	野中 昭彦	医学域総務課	土屋 豊
臨床教育支援室		乙黒 健	
看護部支援室		渡邊 公彦	
医学域学務課		今井 桂	島崎 靖、小林 義仁、福田 英彦 小林 静香

課・室名	課・室長	補佐・専門員
医学域管理課	京嵩 信昌	大和 正基、笠井 秀二、井上 心
医学域医事課	望月 真樹	有野 佳江、萩原 正直、弦間 芳典 東条 加代子
病院経営企画課	佐藤 康樹	根本 栄一、保坂 直史
医療情報課	伏見 幸夫	
医療情報企画室	山本 洋一	四氏 裕一

赤字：変更箇所

病院再整備事業計画について

病院再整備事業につきましては、平素より皆様には多大なるご協力を賜りまして誠に感謝申し上げます。

今年度は10月に新病棟Ⅱ期棟の開院を予定しており、また、中央診療棟の工事が本格的に始まります。

以降、新病棟Ⅲ期棟の建設及び外来診療棟工事を予定しております。

再整備事業期間中は、騒音や振動、診療スペースの一時的な移転等、ご迷惑をお掛けしますが、引き続きご協力の程、よろしくお願いいたします。

【病院Ⅱ期棟進捗状況 (R2.4.30)】



【再整備事業計画】

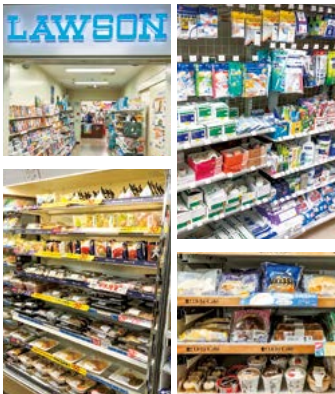


病院施設の紹介

ローソン 山梨大学医学部附属病院店

営業時間：平日 24時間営業（※月曜 8:30 オープン）、土曜日～19:00、日曜日 9:00～19:00

『当店では病院内のコンビニエンスストアとして、皆さまに“便利や快適”、“美味しいや楽しい”をお届けします。』



店長さんの声

『病院内アメニティ施設として、「癒し」「憩い」「安らぎ」の場所になるよう、スタッフ一同、「おもてなし」「いたわり」の心での接客を心掛けております。皆さまのご利用を心よりお待ちしております。』

【お客様のニーズに合わせた豊富な品揃え】

- 食材や食感にこだわった本物の味、おにぎり。旬の食材・テーマ性を持たせた、お弁当、サンドイッチ、サラダ等
- 低糖質・低カロリーのブランパン
- 幅広いお客様にご好評デザート、Uchi Café（ウチカフェ）店内淹れたてコーヒー、MACHI Café（マチカフェ）
- 入院生活、治療、介護に必要な医療衛生材料

【様々なサービス】

- 銀行 ATM
- チケットやギフトの購入が可能“Loppi”
- 郵便ポスト、宅配、公共料金支払い、ネット商品の店頭受取り等